

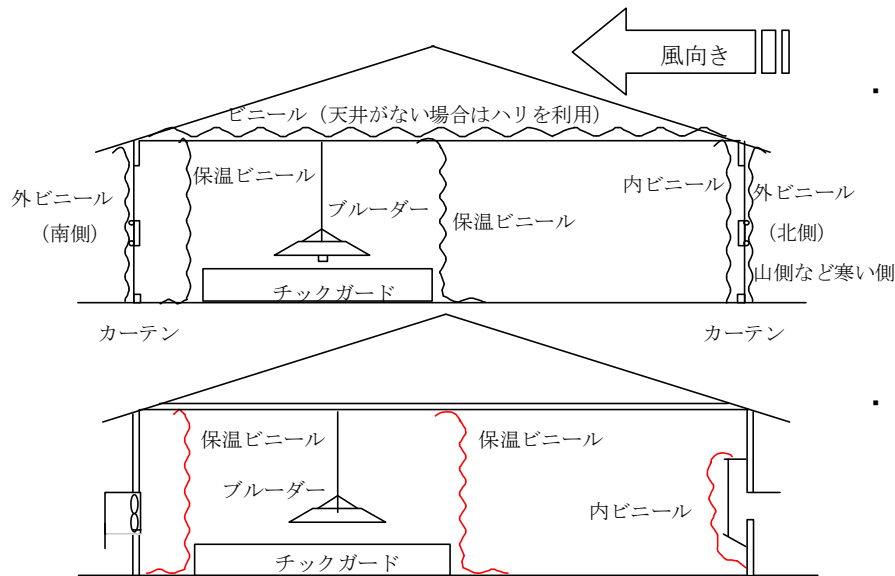
コップ500(Mx)ブロイラーの冬場の最重要管理ポイントについて

株松阪ファーム
(2009年11月)

【冬場の飼養管理の最重要ポイント】

コップ500(Mx)ブロイラーは増体性に優れた鶏種です。短期間で急速に成長する為、適切な温度帯での飼育は無論のこと、酸素要求量を十分に満たしてやる必要があります。従って、育種能力を十分に発揮させる為には、「**徹底した舍内温度管理**」および「**十分な酸素を供給する為の適切な舍内換気と空気循環**」が必要不可欠となります。

- ① **舍内最低温度**は全ての飼養期間において、**コップ推奨温度帯を下回らない**で下さい。(グラフ参照)
 - (ア) 舍内最低温度が記録されるのは朝方が多く、その時間帯の鶏の状態が重要になります。
 - (イ) 鶏の状態を確認し、設定温度が正しいか判断する為にも、夜間・早朝の鶏舎内の見回りを実施して下さい。**換羽が終了する4週令ぐらいまでは重要です。**
- ② 特に、餌付け後**3週間程度**は、適切な保温状態を維持して下さい。
 - (ア) 雛の体温調節機能は、2週令までは不十分で**環境温度に左右されます**。よって、**雛を寒がらせない管理**が重要になります。
 - i. ビニール(農ポリ)等を用いて、**防寒と隙間風の防止対策**を徹底して下さい。



- ・ 左上図のように開放鶏舎では、カーテンの内外に防寒用のビニール(農ポリ:厚0.03~0.05 mm)を貼り、且つ、ガードの周りもビニール(同上記)で囲います。

- ・ 左下図のようにウィンドウレス(WL)鶏舎でも、外が入る可能性があるのならば、直ちに使わない入気口や排気ファンをビニール(同上記)で囲う必要があります。さらに、ガードの周りもビニール(同上記)で囲います。

ii. 広すぎる餌付面積は、**温度ムラ**、**雛のバラツキ**および**雛の寄り癖**を誘発させます。適正な餌付面積をマニュアルで確認して下さい。また、チックガードの**急激な拡張**などは雛にとって好ましくありません。

iii. 3日令ぐらいから、**舍内温度を急激に下げないような換気**が必要となります。

- ・ 最初の換気は、ガード周りの保温用ビニールの上・下部を開けて換気しますが、開け放し・閉め放しにせず**雛の状態に注意し、新鮮な空気を短時間づつ数回に分けて換気**します。
- ・ 必要換気量は以下の表の様に、外気温と雛の体重などの変化に合わせて調節されます。当然の事ながら、増体性の優れているコップ500(Mx)ブロイラーは、**他鶏種に比べ同じ換気量が早い日令で必要**となります。

(基準換気量)* 外気温 5~30℃の条件下

外気温 °C	5	10	15	20	25	30
体重 1kg 当たりの必要換気量 (m ³ /分)	0.030	0.045	0.060	0.080	0.110	0.130

- ・ 最適な温度を維持しつつ生長に合わせた換気量の確保がポイントとなります。急激な温度変化を避ける為にも、以下に述べる**換気バランス・舍内空気循環の調整**が重要となります。

③ **温度維持と酸素供給**を両立させる為に、**換気バランス・舍内空気循環の調整**が重要となります。

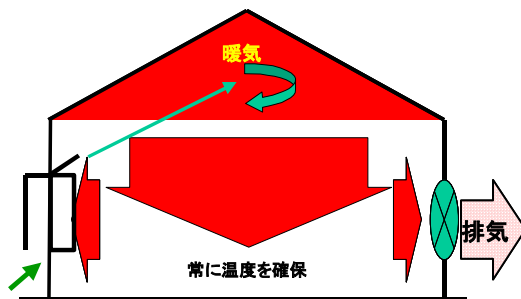
(ア) **餌付けから換羽が終了する 4 週令ぐらいまでは**、以下のような換気の方法が必要となります。

(イ) WL 鶏舎では入気（風向）板等を調整し、空気を**舍内上部に向けて入気**させます。排気ファンの作動方法では、サイクルタイマーや温度センサーを用いて緩急を付けた換気方法「**間歇換気**」が重要となります（例：計画的な 1 分 ON/5~9 分 OFF のサイクル設定や、ファンが連続で稼動することが無い様な温度・ファン出力の設定）。さらに、入気口から入気した外気が舍内上部の暖気に届き、且つ、暖気と攪拌される程度の入気スピードになるよう、**入排気のバランス**を調整して下さい。（下左図）

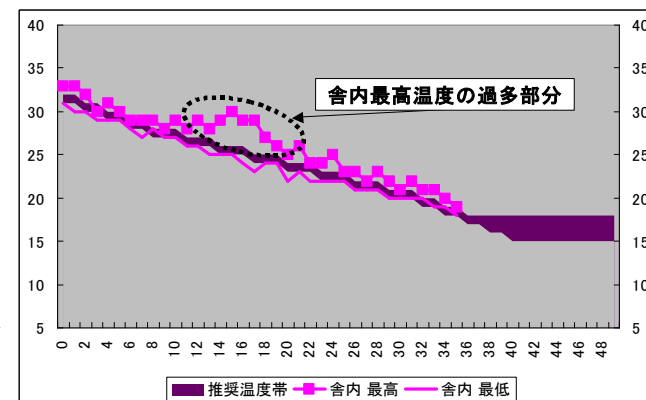
(ウ) 開放鶏舎では、カーテンより入気した空気を、**上側に角度を付けた順送ファン・工業扇等**により**上部の舍内空気（上部にある暖気）と攪拌しながら換気**させる方法が良いでしょう。（下右写真）

(エ) 鶏舎特性を理解しながら、**外気を雛に直接当てる事無く**雛が居る場所へ**新鮮空気を供給**し、且つ、**適温帯を維持**させる事がポイントになります。

横断換気の理想的な設計



- ④ 良好な増体・育成率達成の為、**酸素の供給**が必要不可欠です。
- (ア) コップ推奨温度帯の維持が基本ですが、舎内温度だけで無く、**酸素の供給**にも注力して下さい。
 - (イ) 舎内最低温度だけでなく、換羽の時期(2~4 週令)には、**舎内最高温度の過多**にも気を付けて下さい。
 - (ウ) 冬場の舎内最高温度の過多は、**換気(酸素)不足**を意味します。新鮮な空気の供給不足と湿った空気の排出不足は、疾病等を誘発させ、床面を早く悪化させます。
 - (エ) 2 週令過ぎはワクチンのリアクション対策もあり、温度保持のため換気不足になりがちですが、**加温しながら換気**をするようにして下さい。
 - (オ) 4 週令以降は換気中心の管理に移行となりますが、**鶏の高さで換気が出来ているかが重要であり**、鶏の高さでの**換気(酸素)不足は増体を鈍らせます**。従って、上記③に示した様に舎内空気の攪拌等を行いながら、舎内温度を維持しつつ鶏に十分な酸素を鶏に供給して下さい。



- ⑤ 大腸菌症などの疾病防止や処理場での廃棄率減少の為にも**床面を湿らせない**ことが重要です。
- (ア) **10 日令前後**で床面が湿ると雛は健康状態を崩し易いです。
 - (イ) 床面が湿り始めたら、床面の切り返し等、**早い段階からの床面管理**が重要となります。

【上記の最重要ポイントにプラスして】

コップ500(Mx)ブロイラーは増体性に優れた鶏種ですが、上記の適切な飼養管理と同様に、適切な体重管理も必要となります。特に、育成初期の体重がポイントとなり、当然のことながら標準体重より小さすぎると十分な増体性が望めなくなり、逆に、「**過剰な増体も**」鶏にとって「**大きなストレス**」になる場合があります

- ⑥ 1 週令体重(**雛体重の 4 倍程度**)と 3 週令体重(**♂885g<大きくても 950g 以下>・♀801g**)を必ず確認して下さい。♂の 3 週令体重が **1,000g(♂♀平均 930g)を超え**、5 週令以降のポックリ・脚弱が増加するようなら、**3 週令までの過増体の影響**が考えられます。

過増体の場合の対応例

- (ア) 餌付飼料(クランブル)の給与量を減らす。(例:200g/羽 → 50g/羽)
- (イ) 前期飼料の内容(ME・CP の低減の可能性)を検討する。 etc

以上